

ルブリン

インスピレーション
あふれる街

lublin ®
CITY OF INSPIRATION

文：メトロポリア・ルブリン市観光局
和文リライト：ポーランド政府観光局 石川みゆき
写真：ルブリン市役所



Lublin

METROPOLITAN
TOURISM
ORGANISATION

- 2 ルブリンの位置
- 4 ルブリンの魅力を知る
- 12 ルブリン観光スポット ベスト10
- 18 観光マップ
- 20 欧州文化首都2029
- 22 宿泊案内
- 23 グルメ案内
- 24 シティブレイク
- 30 フェスティバル
- 34 歴史的建造物
- 36 国家遺産標章



ルブリン

ーインスピレーションに出会う町

特別な旅を求める方におすすめしたいのが、ポーランド東部にある魅力あふれる町、ルブリンです。豊かな歴史、多文化のなかで育まれてきた伝統、そして高く評価される食文化が、この町を特別なものにしていきます。

ルブリンには、ゴシック様式の礼拝堂に残るビザンティン・ルーシ系のフレスコ画や、歴史ある修道院を生かした現代的な文化施設など、古さと新しさが美しく調和しています。古くから多様な民族や文化が行き交ってきたこの町には、今もなお独自の多文化的な空気が息づいています。

旧市街を歩けば、創造性にあふれた活気ある町の表情を感じられるでしょう。街角のアートに触れ、ルブリン名物のツェブラシュを味わえば、この土地ならではの魅力をより身近に感じられます。歴史と現代性が調和した景観も、ルブリンならではの見どころです。

昼は旧市街やルブリン城を巡り、自転車やカヤックでアクティブに楽しむのもおすすめです。夜には、雰囲気の良いレストランや洗練されたドリンク、中庭や広場に響く音楽が、旅のひとときをいっそう豊かなものにしてくれます。ルブリンで、心を刺激する特別な時間をお過ごしください。

lublininfo.com



ルブリンの位置

ルブリンは、ポーランド東部に位置する代表的な都市のひとつです。首都ワルシャワから約170km、車でおよそ1時間30分というアクセスのよさも魅力です。なお、ポーランドは欧州連合（EU）およびシェンゲン協定の加盟国です。

最寄りの空港：

ルブリン空港 - 15 km

ワルシャワ・ラドム空港 - 115 km (1時間20分)

ワルシャワ・ショパン空港 - 175 km (1時間30分)

ワルシャワ・モドリン空港 - 211 km (1時間45分)

ジェシュフ・ヤシオンカ空港 - 170 km (2時間)





ルブリンの食の魅

ルブリンの郷土料理は、古くからのポーランド料理に、東部国境地域の食文化やユダヤの伝統が融合した、豊かな味わいが魅力です。ポーランドで親しまれているピエロギや、パンの器に入ったジュレックも、ルブリンならではのスタイルで楽しめます。さらに、この町を代表する名物として知られるチェブラシュもぜひ味わいたい一品です。

町なかではポーランド料理やユダヤ料理、イタリア料理をはじめ、ストリートフードやヴィーガン料理まで多彩な味に出会えます。地元のブルワリーでは、この地域ならではのクラフトビールやシードル、ミードも楽しめます。

ルブリンのレストランやバーは、一年を通してそれぞれに魅力的な雰囲気を生み出しています。冬には温かな店内でホットビールを味わい、夏には灯りに彩られた活気あふれるテラス席で、心地よい時間を過ごせます。



フェスティバルの町、 ルブリン

ルブリンでフェスティバルが始まると、町全体が熱気に包まれます。にぎわいは細い路地や小さな広場にまで広がり、中庭や広場には劇団が現れ、建物は色とりどりの光のなかで浮かびあがります。

「大道芸の祭典」では、パフォーマーやマジシャン、スラックラインの演者たちが町を彩ります。「カルチャー・ナイト」には、幻想的なインスタレーションが街の空間を満たし、る伝統と手仕事の祭典「Re:tradycjaレトラディツィア」では、ルブリンが何世紀も前の食や商いの伝統をよみがえらせます。

けれども、これはルブリンのフェスティバルがもたらす魅力のほんの一部にすぎません。その特別な空気は、ぜひ現地で体感してみてください。



多文化が息づく町、 ルブリン

交易路沿いに発展してきたルブリンの長い歴史は、多文化性と深く結びついています。長年にわたり、この町には正教会の信徒やユダヤ人、ギリシャ・カトリックの人々の商人や職人が定住してきました。宗教改革の時代には、宗教的寛容のもとでプロテスタントの共同体も発展しました。さらに19世紀には、西欧から訪れた実業家たちが加わり、町はいっそう多彩な広がりを見せるようになります。ルブリンの多文化の足跡をたどれば、建築の美しい遺産に出会えるだけでなく、この町を形づくってきた興味深い物語や人物にも触れることができるでしょう。



ヤギェウォ朝の時代 を伝えるルブリン

ヤギェウォ朝の統治下にあったポーランドの時代は、「黄金時代」と呼ばれています。それには確かな理由があります。この時代、ルブリンは力強い商業都市として発展し、多文化が交わる中心地としても大きな役割を果たしました。

数々の特権が市民の暮らしを支え、人々は富を築き、町を広げ、学校や公共機関を整えていきました。15世紀から16世紀にかけてのルブリンの繁栄は、今も数多くの歴史的建造物にその面影を残しています。さらに、毎年8月に開催される伝統と手仕事の祭典「Re:tradycjaレトラディツィア」も、往時の輝きを今に伝えています。



ユダヤの歴史を刻む ル布林

ユダヤの人々は、中世以来、ルブリンの社会を形づくる重要な存在でした。ル布林は、ユダヤ教の神秘主義的な潮流であるハシディズムの重要な中心地としても知られています。町には著名なハシディズムのラビ、ヤコブ・イツハク・ホロヴィッツが暮らし、教えを説き、そしてこの地に葬られました。彼の墓は、今も世界各地からハシディズムの巡礼者が訪れる場所となっています。20世紀初頭、ルブリンのユダヤ人社会は大きく発展し、市民のおよそ3分の1を占めるまでになりました。この時期には、タルムード学院「イエシヴァト・ハフメイ・ル布林」も創設されています。しかし、その後の年月は悲劇をもたらしました。第二次世界大戦中、ユダヤ人地区はゲットーへと変えられ、そこに暮らしていた人々はホロコーストの犠牲となりました。



ルブリンのストリートアート

「インスピレーションの町」ルブリンは、色彩にあふれた町でもあります。ストリートアートは、現代の芸術都市ルブリンを象徴する表現のひとつです。街の歴史的建造物の壁や塀には、多彩な壁画が描かれています。そのテーマもさまざま、ルブリンにとって大切な出来事を記念するもの、町を彩るフェスティバルに着想を得たもの、そして現代社会が抱える重要な課題を映し出すものもあります。さらに、ルブリンのストリートアートは壁画だけにとどまりません。町の通りや広場には、色鮮やかな光のインスタレーションや、空間そのものを生かした彫刻作品が点在し、町歩きに新たな発見を添えています。



アクティブに楽しむ ルブリン

ルブリンでは、町歩きだけでなく、体を動かしながら街の魅力にふれる楽しみ方もできます。市内には全長約200kmにおよぶサイクリングロードが整備されており、とくに美しいレクリエーションエリアを快適に巡ることができます。道沿いには、この地域ならではの風景である乾いた谷が広がり、ルブリンらしい自然の表情を感じられます。

また、自転車道はビストシツァ川に沿ってゼンボジツキ貯水池へと続いています。浅く流れの穏やかな川はカヤックにも適しており、水辺からのんびりと景色を楽しむのもおすすめです。貯水池周辺にはビーチや屋外パブ、ウォータースポーツ施設もあり、セーリングやカヤックなどを気軽に満喫できます。



緑に憩うルブリン

ルブリンには、散策やひと休みにぴったりの緑豊かな場所が数多くあります。なかでも中心部にあるサスキ庭園は、街なかに広がる緑のオアシス。自然記念物に指定された古木が並び、落ち着いた雰囲気の中でゆったりとした時間を過ごせます。そのほかにも、ルドヴィ公園や、この地域特有の乾いた谷に広がる公園など、自然を身近に感じられるスポットが点在しています。園内には散策路や自転車道が整備されており、のびやかな景色を眺めながら思い思いの時間を楽しめます。また、ルブリン農村博物館では、古い農家や木造教会、風車に囲まれたのどかな空間のなかで、ゆったりとしたひとときを過ごせます。UMCS植物園では、この地域に見られる植物はもちろん、世界各地の多彩な植物に出会えるのも魅力です。



ルブリン 観光スポット TOP10

旧市街

ルブリンの旧市街は、歴史の面影を色濃く残す、趣あふれるエリアです。比較的コンパクトな区域に100を超える歴史的建造物が集まり、街の中心として、数々の重要な催しの舞台にもなってきました。規模は大きくありませんが、市内のみならず、ポーランド全体にとっても価値ある歴史遺産が数多く残されています。なかでも目を引くのが、かつての城壁の名残をとどめるクラクフ門とグロツカ門です。旧市街の中央広場には、地下観光ルートを備えた旧王立裁判所が建ち、その周囲を彩る歴史ある建物群には、さまざまな伝説や物語が息づいています。世俗的なフレスコ画が残る貴重なワインセラーも、この町ならではの見どころのひとつです。さらに、ルブリンの壮大な歴史を今に伝えるドミニコ会修道院聖堂も見逃せません。夏には旧市街の広場や通りにレストランのテラス席が並び、多彩な文化イベントでにぎわいます。冬には、ここでしか出会えない幻想的なイルミネーションが街を美しく彩ります。



ルブリン城と聖三位一体礼拝堂

ルブリン城は、現在は国立博物館の拠点として活用されており、ルブリンを代表する見どころのひとつです。館内では、考古資料や民族誌資料の充実したコレクションをはじめ、ポーランド国内外の優れた画家たちの作品を鑑賞できます。民俗衣装や工芸品の収蔵も見逃せません。城内には、ロマネスク様式の防御塔も残されています。これは市内に現存する最古の建造物で、この地域においても極めて貴重な存在です。塔の展望テラスからは、旧市街の美しいパノラマを一望できます。また、ヨーロッパ遺産ラベルに認定されている聖三位一体礼拝堂も、ぜひ訪れたい特別な場所です。外観はゴシック様式ですが、内部にはビザンティン・ルーシ系の貴重なフレスコ画が残されており、その鮮やかな装飾は訪れる人を魅了します。

トリニタルスカ塔と大聖堂

ルブリン大聖堂では、ヨゼフ・マイエルによる幻想的なだまし絵風の壁画をはじめ、壮麗な内部装飾を間近に鑑賞できます。黒檀の祭壇や、血の涙を流したと伝えられる絵画、14世紀の洗礼盤など、堂内には数多くの貴重な宝物が収められています。見学では、優れた音響効果で知られる聖具室や地下墓所を訪れることもできます。さらに、すぐ近くに立つトリニタルスカ塔も見逃せません。旧市街を見下ろすこの塔は、207段の階段を上った先に高さ約40メートルの展望テラスがあり、市内でも屈指の眺望を楽しめます。



リトアニア広場

リトアニア広場の中心には、ポーランドでも最先端を誇るマルチメディア噴水があります。日が暮れると噴水は色とりどりの光に包まれ、幻想的な雰囲気になります。夏の夜には、水と光、音を組み合わせた壮大なショーが行われ、歴史的な出来事や文化、ルブリンに伝わる伝説の世界が鮮やかに映し出されます。広場には、ルブリン合同を記念するオペリスクも建っており、街の歴史を感じさせる見どころのひとつとなっています。また、壮麗なルボミルスキ宮殿もこの広場を彩る存在です。近い将来には、ここに旧ポーランド・リトアニア共和国東方地域博物館が開設される予定です。

遊歩道

歴史ある建物に囲まれたカフェが並ぶ遊歩道は、どの町にもあるかもしれません。けれども、ルブリンの遊歩道には格別の魅力があります。その理由は、教会の塔や旧市街の門を望む美しい眺めにあります。とりわけ、夕陽に照らされたその姿は印象的です。思わず足を止めて腰を下ろし、街角に流れる音楽に耳を傾けながら、地元のアイスクリームを味わいたくなる——そんな心地よい空気がここにはあります。クラコフスキエ・プシェドミエシチエの夜は、クラブやバーの灯りに彩られ、旅の時間をいっそう楽しいものにしてくれます。



カルチャー・エンカウンター・センター

ルブリンでは、少し歩くだけで、歴史ある街並みから現代的な空間へと景色が大きく変わります。旧市街のほど近くにあるカルチャー・エンカウンター・センターは、そうしたこの町の新しい表情を感じられる場所です。建物はすっきりとした外観が印象的で、内部には現代的で開放感のある空間が広がっています。屋上には養蜂施設があり、隣接するサスキ庭園と調和するように緑も取り入れられています。館内には映画館のほか、多彩な文化にふれられる施設がそろっています。



マイダネク博物館

「私たちの運命を、あなたがたへの警告とせよ」——マウゾレウムのドームには、そのような言葉が刻まれています。ここに設けられたドイツ強制収容所は、1941年秋から1944年7月まで存在しました。さらに1944年11月には、第二次世界大戦とホロコーストの犠牲者を追悼する、世界で最も早い時期の博物館のひとつとなりました。この博物館は、犠牲者の記憶を守り、遺構を保存し、収容所の歴史を記録し続けることを使命としています。敷地内にはおよそ70の歴史的建造物が残されており、5つあった収容区の中の1区画と、一部の管理棟・関連施設は現在も当時の姿のまま保存されています。

グロツカ門センター

ここは、かつてルブリンに生きたユダヤの人々の記憶を今に伝える場所です。ナチスは、この町で暮らしていたユダヤの人々の痕跡を消し去ろうとしましたが、その記憶までも消し去ることはできませんでした。長年にわたり、センターのスタッフは、一人ひとりの人生や家族の歴史、建物にまつわる記録を丹念に集め続けてきました。その成果として、戦前にはどの通りでいちばんおいしいハラ（ユダヤの伝統的な編み込みパン）が買えたのか、また水一桶がいくらだったのかといった、当時の暮らしを身近に伝える音声資料も公開されています。グロツカ門の近くには、ホロコーストの犠牲者を追悼する「記憶の灯」もあります。その灯は、絶えることなく静かにともし続けています。



ル布林農村博物館

ル布林農村博物館では、茅葺き屋根の農家の内部をのぞいたり、小さな町に残る昔ながらの工房を訪ねたりしながら、かつての暮らしを身近に感じることができます。村の小道を歩く家畜の姿も、この場所ならではの風景です。敷地内には、2つの木造聖堂も残されており、素朴で美しい建築にも出会えます。野外博物館では一年を通して伝統行事やさまざまな催しが開かれており、訪れるたびに異なる魅力を楽しめます。館内の食事処では、地元ならではの味を気軽に味わえるのも魅力です。

ゼンボジツキ貯水池

ゼンボジツキ貯水池の周辺には、砂浜や緑豊かな空間が広がり、ピクニックやバーベキューを楽しむのにぴったりです。水辺でのアクティビティを満喫したい方には、シーズン中にオープンする「スウォネチュヌイ・ヴロトクフ」がおすすめです。プールやウォータースライダーを備えたウォーターパークとして、多くの人でにぎわいます。このほか、ウォータースポーツ用具やカヤックのレンタルも利用でき、気軽に水辺のレジャーを楽しめます。さらに、ロープコースや、貯水池を一周する自転車道も整っており、自然のなかで体を動かしながら思い思いの時間を過ごせます。





ルブリンは、2029年の欧州文化首都に選ばれました。この榮譽ある称号のもと、ルブリンでは一年を通して、地元ルブリンをはじめ、ポーランド各地、そしてヨーロッパ各地のアーティストたちによる多彩なプログラムが展開されます。2029年、ヨーロッパの視線はルブリンに集まることでしょう。

700年以上にわたるルブリンの歴史は、文化と芸術に彩られてきました。

旧市街を歩き、幾重もの物語にふれ、東西ヨーロッパの伝統が出会う聖三位一体礼拝堂のビザンティン風フレスコ画を見上げ、さまざまな催しに参加する。そうした体験を通して、ルブリンでは文化を五感で味わうことができます。私たちは、文化こそが自分たちのあり方を映し出すもっとも大切なものであり、芸術と感受性が人と人とのつながりを育むと信じています。

ルブリンが2029年欧州文化首都の称号を得た背景には、前衛文化、挑戦的な演劇、クラシック音楽とオルタナティブ音楽、視覚芸術、そして新しいサーカス表現を育んできた長い歩みがあります。こうした芸術は、この町の日常のなかにしっかりと根づき、とりわけルブリンで生まれ、地域のアーティストたちによって育まれ、発展してきました。

またルブリンには、ルブリン合同という大胆な歴史的遺産と、開かれた感性に支えられた多文化都市としての伝統が、今も息づいています。ここでは、「ルブリン合同から欧州連合へ」という言葉が、ひととき強い実感をもって響いているのです。

ルブリンが2029年に向けて準備しているのは、数多くのプロジェクトや文化イベントからなる多彩なプログラムです。その核となるのが、「RE:UNION」という考え方です。そこには、人と人との

つながりや対話、そしてあらためて結び直すことへの思いが込められています。これは、ポーランド東部から新しい共同体のかたちを探る試みであると同時に、ポーランドに生きる私たち、そしてヨーロッパの一員としての私たち自身を見つめ直す提案でもあります。

ルブリン2029を、人と自然が調和し、現実の暮らしのなかで心地よく過ごせる場にしたい。さらに、芸術の新たな可能性を探り、この町を少し引いた視点から見つめ、自由について語り合い、互いに刺激を与え合える機会にしたい。ルブリンには、そうした願いが込められています。



EOxGルブリン2029 REUNION入札におけるマリウス・タルカウィアンの図面

今からぜひ、ヨーロッパのルブリン——「インスピレーションの町」に触れてみてください。町をじっくり歩き、見つめ、味わい、耳を澄ませることで、その魅力はより深く感じられるはずです。欧州文化首都2029で過ごす時間が、忘れられない体験となり、この町やそこに暮らす人々との特別な出会いにつながることを願っています。

くわしくは、こちらをご覧ください。

www.esk2029.lublin.eu



EUROPEAN
CAPITAL
OF CULTURE



どこに泊まる？

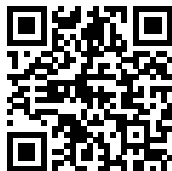
IBBグランドホテル・ルブリン

友人との週末旅行、家族での滞在、カップルでの小旅行、さらにはペットと一緒にの旅まで、ルブリンにはさまざまな旅のスタイルに合った宿泊先がそろっています。

この町の大きな魅力のひとつは、ルブリン地方を巡る拠点として便利なことです。市内はコンパクトにまとまっているため、どこに泊まっても移動しやすく、旧市街はもちろん、コズウォフカ宮殿やナウエンチュフなど周辺の見どころへも気軽に足を延ばせます。

ルブリンには、歴史ある建物を生かしたホテルをはじめ、快適なアパートメント、手頃な価格で泊まれるおしゃれなホステルなど、多彩な宿泊施設があります。旅の目的や予算に合わせて、自分に合った滞在先を選べるのも魅力です。

宿泊施設の詳細は、
こちらからご覧いただけます。
www.lublininfo.com/en/where-to-stay





どこで食べる？

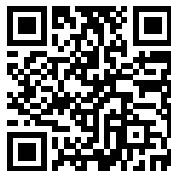
ベルウォヴァ・ピヤルニャ・ビヴァ

ルブリンの食の魅力は、その多彩さにあります。この町の味わいを言葉で表そうとする人は少なくありませんが、やはり実際に味わってみるのがいちばんです。

この地域の料理には、長く受け継がれてきた食文化が息づいています。一皿一皿からは、ルブリンが育んできた多文化の歴史を感じることができます。とりわけ、この町の食を象徴しているのは、ポーランド料理、ユダヤ料理、そして東部国境地帯の料理です。さらに市内には、イタリア料理や中東料理、アジア料理をはじめ、さまざまなヨーロッパの味を楽しめる店もそろっています。地元の名物料理には、豊かな自然の恵みと地域ならではの食材が生かされています。ルブリンを訪れたなら、ツェブラシュ、フォシュマク、ルブリン風シュニツェル、ピエロギ、ルブリン風そばの発酵菓子など、この土地ならではの味をぜひ試してみたいところです。

郷土料理を楽しめるルブリン
のレストラン情報は、
こちらでご覧いただけます。

www.lublininfo.com/en/where-to-eat





シティブレイク

ルブリンは、ひらめきと行動、思索と発見が交差する場所。過去と現在が重なり合う、魅力あふれる町です。ぜひ訪れて、その空気を感じ、実際に体験してみてください。
短い滞在でも楽しめるように、おすすめのモデルプランをご用意しました。訪れたい場所や興味に合わせて、自由にアレンジしてみてください。

1日目 — 金曜日：ゆったりとしたスタート

まずは旧市街から

焼きたてのツェブラシュと香り高いコーヒーで一日を始めれば、旅の気分もいっそう高まります。そんな朝は、ルブリン城から散策を始めるのがおすすめです。現在、城内には国立博物館があり、見応えのある展示がそろっています。
中庭には、世界的にも貴重なビザンティン・ルーシ系のフレスコ画で知られる聖三位一体礼拝堂や、ルブリンでも最古級の建造物のひとつである城の塔（ドンジョン）が残されています。塔の展望台からは、町並みを一望することができます。
城から旧市街へ向かう道は、かつてキリスト教地区とユダヤ人地



区を分けていたグロツカ門を通ります。現在、この門には「ブルム・グロツカーテートルNN」センターが入っており、ルブリンの歴史と記憶にふれることができます。そのまま歩みを進めると、歴史ある建物が次々と姿を現します。ひとつひとつの建物に刻まれた物語に、少し足を止めて耳を傾けてみるのも、この町歩きの楽しみです。聖スタニスワフ聖堂を擁するドミニコ会修道院や、旧劇場の建物も見逃せません。旧市街の路地をたどれば、「不運の石」や、かつてのルブリンの街並みを描いた壁画、半円塔、写真映えするハルトヴィク路地など、この町ならではの見どころに出会えます。中央広場の中心に建つ旧王立裁判所からは、ルブリン地下観光ルートが始まります。ルブリンに伝わる数々の伝説、とりわけ有名な「悪魔の手」の物語にふれるのにもふさわしい場所です。

夜の散策へ

旧市街は、夜になってからこそ歩いてみたくなる場所です。やわらかな街灯に照らされた歴史ある建物は、昼間とはまた違う表情を見せ、町全体がいつそう趣深く感じられます。なかでも、ファラ広場から眺める夜のルブリン城と町並みは、とくに印象的な風景です。夜は、地元のレストランや食堂、パブを訪ねてみるのにもぴったりの時間です。ポーランド料理やユダヤ料理、イタリア料理をはじめ、ストリートフードやヴィーガン料理まで、多彩な味を楽しめます。さらに、この地域ならではのクラフトビールやシードル、果実酒、蜂蜜酒も見逃せません。多くの店で味わえるルブリン名物ツェブラシュのさまざまなアレンジも、ぜひ試してみたいところです。



2日目 — 土曜日：たっぷり楽しむ一日

クラコフスキェ・プシエドミェシチュェを歩く

クラコフスキェ・プシエドミェシチュェ通りとその周辺には、立ち寄りたい見どころが数多く集まっています。新市庁舎、聖霊教会、ル布林合同記念碑、ユゼフ・ピウスツキ像、チャルトリスキ宮殿、ルボミルスキ宮殿など、歴史を感じさせる建物や記念碑が次々と現れ、歩いているだけでも町の奥行きを感じられます。そのまま王の道を進むと、リトアニア広場に出ます。夜になると噴水が色鮮やかにライトアップされ、広場を印象的に彩ります。「I ♥ Lublin」のモニュメントもあり、記念写真の人気スポットとして親しまれています。この周辺にはレストランも多く、散策の途中にひと休みを兼ねて食事を楽しむのにもぴったりです。



さらに足を延ばせば、ルブリン最古の公園であるサスキ庭園にも立ち寄れます。街の中心にありながら、緑に包まれた落ち着いた空間が広がり、ゆったりとした時間を過ごせます。そこから通りを渡ると、すぐに劇場広場に着きます。ここでは、カルチャー・エンカウンター・センターの現代的な建物がひととき目を引きまします。館内にはコンサートホールや劇場空間、展示スペースがあり、ぜひ中にも足を運びたいところです。屋上にはガラス張りの展望テラスが設けられ、いつもとは少し違う角度から町並みを眺めることができます。あわせて、屋上のアート養蜂場も、この施設ならではの見どころのひとつです。

マイダネク博物館で、静かに過去を見つめる

マイダネク国立博物館は、第二次世界大戦の犠牲者を追悼するヨーロッパ最古の博物館です。1944年秋、通称マイダネクと呼ばれる旧ドイツ強制収容所の跡地に設立されました。博物館の敷地は90ヘクタールにおよび、約70の歴史的建造物が残されています。歴史に向き合うことは、決して容易なことではありません。それでも、マイダネク博物館のような場所は、私たちに過去を記憶し続けることの大切さを静かに伝えてくれます。この場所を訪れ、あの悲慘な時代の犠牲者に思いを寄せながら、しばし過去を見つめてみてください。



3日目—日曜日のくつろぎ時間

自然の中でゆったり過ごす一日

この日は、ルブリン野外民俗博物館とUMCS植物園を訪ねるのがおすすめです。どちらか一方をゆっくり楽しむのもよく、時間に余裕があれば両方を巡ることもできます。ルブリン野外民俗博物館は、この地方の村や小さな町に息づいていた昔の暮らしを身近に感じられる特別な場所です。ポーランドでも有数の規模を誇る野外博物館のひとつで、かつての農家の室内をのぞいたり、職人工房や教会、正教会、風車などを見学したりすることができます。子ども連れの旅なら、敷地内を歩く家畜たちの姿も楽しい見どころになります。館内には郷土料理を味わえる食事処もあり、ひと休みをしたり、のんびりとした時間を過ごしたりするのもぴったりです。

一方、植物園は、「ルブリンの秘密の庭」と呼びたくなるような魅力をたたえた場所です。春には草木や花々がいっせいに芽吹き、とりわけ美しい景色が広がりますが、夏や秋にもこの場所ならではの豊かな自然を楽しめます。



園内には世界各地から集められた約6,500種もの植物があり、木々や低木、花々を眺めながら、庭園や温室、趣ある小道をゆったりと歩く時間は格別です。敷地内にはコシチューシコ家の館や小さなカフェもあり、静かなひとときを過ごすのにもふさわしい場所です。

ゼンボジツキ貯水池でのレクリエーション

天気の良い日には、ゼンボジツキ貯水池まで足を延ばしてみるのもおすすめです。市内中心部からは、ビストシツァ川沿いの自転車道をたどって向かうこともでき、市内交通を利用して気軽に訪れることもできます。

現地では、アスレチックパークや水上スキー用のケーブル設備を楽しんだり、水辺のアクティビティ用具を借りたりと、さまざまな過ごし方ができます。時間に余裕があれば、ビストシツァ川での川下りを体験してみるのもよいでしょう。シーズン中には、水上レジャーパーク「スウォネチヌィ・ヴロトクフ」も営業し、多くの人でにぎわいます。

もちろん、ただのんびり過ごしたい人にもぴったりの場所です。浜辺でくつろぎ、木々のざわめきや波の音に耳を傾けていると、心も体もやさしくほどけていくような時間を味わえます。



フェスティバル

大道芸の祭典

このフェスティバルは、イツァーク・シンゲルの小説『ルブリンの魔術師』に着想を得て生まれました。

物語の主人公ヤシャ・マズールは、綱渡りを得意とする一方で、日々の暮らしの中ではさまざまな困難につまずき、やがて思いがけない場所で心の安らぎを見いだします。この物語に込められた世界観は、フェスティバルの理念にも深く通じています。

勇気、友情、退屈とのたたかい、そしてバランスを保とうとする試み。そうした要素こそが、現代サーカスの核となるものです。だからこそ、世界各地から俳優やサーカスの名手たちがルブリンに集い、息をのむような舞台やパフォーマンスを披露します。ベルギーのクラウンが、フィンランドのモト・アクロバットの演者と並んで登場することも珍しくありません。この催しは、都市の空間そのものを舞台とする、ポーランド唯一の現代サーカスのフェスティバルです。開催期間中の旧市街は、大道芸人やイリュージョニスト、スラックラインのパフォーマーたちであふれ、町全体が熱気に包まれます。



カルチャー・ナイト

「カルチャー・ナイト」は、ルブリン旧市街を舞台に、数多くの芸術イベントが繰り広げられる特別な一夜です。美しい町並みの中を、忘れられない体験を求めて多くの人々が行き交い、この夜のルブリンは、年に一度だけ現れる魔法のような表情を見せます。ふだんなら思いもよらないことが、まるで自然に起こってしまう——そんな特別な時間が街を包みます。この催しは、アーティストや文化活動に携わる人々、そしてこのひとときをともに楽しみたいと願うすべての人々が出会う場でもあります。旧市街の名所はもちろん、普段は気づかずに通り過ぎてしまうような路地や小さな空間にも、アート・インスタレーション、野外映画、舞台公演、親密な雰囲気のコネサートなど、多彩な企画が現れます。カルチャー・ナイトは、ルブリンという町の新たな魅力に出会うきっかけを与えてくれるイベントです。初めて訪れる人にも、すでにこの町を知っている人にも、ルブリンをあらためて発見するよろこびを届けてくれます。



フェスティバル Re:tradycja

8月のルブリンでは、活気あふれる市が立ち、町全体がにぎわいに包まれます。

民俗文化と民芸の祭典「Re:tradycja」は旧市街を舞台に開かれ、かつてのヤギェウォ朝の版図に属していた各地をはじめ、さまざまな地域から職人や手仕事の作り手たちが集まります。

ある屋台には蜂蜜やハーブが並び、別の屋台には琥珀の伝統的なアクセサリーが並びます。けれど、この祭りの本当の魅力は、やはり職人たちの見事な手仕事にあります。

土のナイチンゲール笛を吹いて楽しむのもよし、民俗切り絵づくりに挑戦してみるのもよし。そんな素朴で温かな楽しみに出会えるのも、この祭りならではです。通りや教会には音楽が響き、広場では人々が踊りを楽しみます。フェスティバル Re:tradycja は、ルブリンがかつて交易路の要衝として栄えていた町であったことを、今にやさしく思い起こさせてくれます。



異なる響き

ポーランド語で「wschód」は、「東」と「夜明け」の両方を意味します。

その名にふさわしく、このフェスティバルでは、夏の長い4日間が音楽と楽しみに満ちた特別な時間へと変わります。ジャンルや伝統、そして多様な文化的影響が交わる場所で生まれる、刺激的な音楽表現に出会えるのがこの催しの魅力です。「東方文化」の理念のもと、ルブリンにはウクライナ、ベラルーシ、ジョージア、アルメニアなどから、個性豊かなアーティストたちが集います。新しい感性や表現を求める人々にとって、このフェスティバルはまさに見逃せないひとときです。これまでも Shibusashirazu Orchestra や Einstürzende Neubauten など、独自の世界観を持つアーティストが出演してきました。会期中は、コンサートに加え、ディスカッション、ワークショップ、展覧会、映画上映も開催されます。

さらに、子ども向けプログラム「Little Different Sounds」も用意されており、大人から子どもまで幅広く楽しめるフェスティバルとなっています。



歴史的記念物

火災や戦争、そして交易は、長い年月のなかでルブリンの町の姿を大きく形づくってきました。そうして受け継がれてきた町の遺産は、ポーランド文化を理解するうえで欠かせない存在となっています。たとえば、聖三位一体礼拝堂がもつ歴史的、学術的、芸術的な価値は、ひとつの基準だけでは語り尽くせません。ルブリン最古の地区は、その高い価値が認められ、「歴史的記念物」の地位を与えられています。ルブリンは、この称号を持つポーランドの10都市のひとつです。対象となっているのは、城の丘、旧市街、そして市中心部の一部です。これらの地区には、中世から現代に至るまで、さまざまな時代に築かれた建物が残されており、それらが一体となって、丘と谷に広がるルブリンならではの美しい都市景観をつくり出しています。



ルブリンの歴史的建築・都市景観地区は、次のエリアと建造物によって構成されています。

- 城の丘とルブリン城
- 旧王立裁判所と聖スタニスワフ聖堂を含む旧市街
- 歴史あるクラクフスキェ・プシェドミェシチェ通りの一角と、その周辺の歴史的建物群および聖霊教会
- リトアニア広場
- 聖ブリギダ修道院旧跡と聖母被昇天勝利教会
- 旧ベルナルディン修道院と聖パウロ回心教会
- ルブリン大聖堂およびクルレフスカ通り南側の街並み



欧州遺産ラベル



1569年、ルブリンでは、ポーランド王国とリトアニア大公国を結びつける歴史的な合同が成立しました。この出来事は、今日ではヨーロッパ統合の理念の原点のひとつとして位置づけられています。対等な二つの国による新たな国家づくりの舞台となったルブリンの歴史的意義は、2015年、この町のゆかりの建造物に欧州遺産ラベルが授与されたことによって、あらためて広く示されました。

欧州遺産ラベルの対象となっているのは、次の三つの場所です。

■ ルブリン城の聖三位一体礼拝堂

「リトアニア大公国との合同は現実となった」と刻まれた碑文が見つかった場所として知られています。

■ 聖スタニスワフ殉教者聖堂

13世紀の修道院複合施設の一部で、合同成立に際しては、ポーランド王と使節たちが参列する感謝のミサが行われました。合同成立後には、ドミニコ会修道院の一室で祝宴が催されたと伝えられています。

■ ルブリン合同記念碑

1825年に建てられた記念碑で、ルブリン合同の歴史を今に伝える重要なモニュメントです。

A scenic view of the Old Town of Lublin, Poland, featuring colorful historic buildings and a prominent church with a green spire under a blue sky with white clouds.

旅のインスピレーションセンター

住所：Jezuicka 1/3

電話：+48 533 39 1569

メール：info@lublininfo.com

ウェブサイト：lublininfo.com

 cit.lublin

 lublininfo_com



lublininfo.com

